

この2つの庭園は、新宿御苑の至るところで見られる日本の美を引き立たせる場所です。また、19世紀と20世紀初頭の日本の皇室が、欧州基準の芸術や上位文化に重きに置いていたことがわかる場所でもあります。

整形式庭園は、プラタナスの木が両側に並べられた左右対称の美しい庭園です。19世紀に設計された時には、現在最も有名な造作となっている、庭の中心部を取り囲むバラ花壇は含まれていませんでした。今日、綿密に設計された整形式庭園は、それとは対照的により自然風の造りになっている風景式庭園の広場との間にある砂利広場へと続いています。砂利広場にはもともと、宮殿が立てられる計画がありました。

風景式庭園は、ユリノキやヒマラヤスギ、その他の大木が周縁に点在する広大で開けた芝生を特徴としています。ここにはたくさんの桜があり、春にはこの庭園にとっても美しく映えます。整形式庭園から風景式庭園の広場を通り、その先へと一直線に抜けていく見通し線はビスタラインと呼ばれています。